

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101843		
法人名	有限会社 てるてるぼうず		
事業所名	グループホーム てるてるぼうず		
所在地	青森市高田字川瀬334-5		
自己評価作成日	平成26年10月5日	評価結果市町村受理日	平成27年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域の方々との交流の場が多く、ホームの行事にもボランティアとして参加していただき、支えてもらっている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成26年11月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を掲げ、普段スタッフが 見られる位置に掲示している。 月曜日の朝礼時に出勤スタッフ全員で理念 を唱和し、実践に繋がられるよう、日々努力 している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	行事では声をかけ合い、町会長、児童館館 長、民生委員、消防団長、婦人会会長、婦 人会の方等の協力がある。 また、児童との交流の場も設けている。 年に一度、必ず伝統の獅子踊りの訪問もあ り、入居者様は楽しみにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	プライバシーには十分に配慮し、運営推進 会議に参加している町内の方等と、認知症 の方の関わり方について話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	2ヶ月に1回、第四月曜日に開催し、出席し やすい環境を作っている。 小学校の校長先生、町会長、児童館長、民 生委員、消防団長、婦人会会長等に出席し ていただき、ホームの行事や予定等を報告 して、現場での現状を伝え、アドバイス等 をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市等からの連絡には素早く対応している。 情報もいち早く伝え、積極的に関係を築くよ うにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体 的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含 めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容を全スタッフが理解してい る。 皆で過ごす時間を多く持つよう心がけてい る。 音等には素早く反応して対応するよう、全ス タッフが心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等に対応方法を検討したり、入居者様は人生の大先輩であることを伝え、言葉遣いや行為に気をつける姿勢を忘れぬよう伝えている。 また、ストレスを溜めず、スタッフの心も健康であるよう、虐待防止に向けて取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修へ参加したスタッフが内部研修を行い、全スタッフが内容を理解している。 必要な方に話ができるよう、資料を用意している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の該当箇所を示しながら、文章と口頭で説明している。 自立支援に関する事項、それに伴うリスクに関しても十分な説明を行い、同意を得て契約を結んでいただくよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。 日々の入居者様の様子を毎月のお手紙や面会時、電話等で知らせる中で、家族の思い等を聞き、運営に反映させるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はスタッフと1対1で面談する機会を設けている。 月に一度の管理者ミーティングの際に話し合い、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のスタッフの努力や力量等の把握に努め、年2回の賞与は人事考課を取り入れ、評価が反映されている。 また、希望休暇がとれるよう、スタッフ同士も互いに協力し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修に参加する機会を設けている。 外部研修に参加したスタッフは、内容を内部研修、または報告書にて伝達している。 新人職員に対しては個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事を通して、他グループホームとの交流を図っている。 交流の場を設けて情報交換し、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネージャーや家族から情報をいただく中で、本人の様子を見極めながら、いただいた情報をヒントに関係づくりに努め、また、スムーズに入居に繋げることができている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前の見学・申し込みの時点でも、困ってる事や不安な事等について相談を受けながら、可能な限り、柔軟な対応を行っている。 また、要望に耳を傾けながら、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事や不安な事を聞き、家族のニーズを見極め、入居者様本位のサービスが受けれるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	面会時や毎月のお手紙で、変化していく状態等の様子を知らせながら、本人を支えていくための協力関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれの家族の背景を可能な限り把握して、毎月のお手紙での情報、電話連絡、面会時等、本人の状態を報告し、また、要望を聞き入れ、共に本人を支えていくための協力関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や友人等、気軽に来ていただける関係・環境づくりに努め、馴染みの関係が途切れないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の様子から、入居者様同士の関係を把握しながら、状況に応じて、気の合う者同士の場面を作ったり、孤立することなく共に関わり合えるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、状況に応じて、病院へ面会に行ったり、電話相談に応じるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、入浴時、就寝前等、1対1で気軽に話ができるよう心がけ、本人の思いを引き出せるように努めている。また、家族から情報を得て、その人に合った支援を心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴やサービス利用の経緯等、家族や以前利用していた施設、病院等から情報を得て、全スタッフで共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日のリズムや習慣等から、できるだけ細かい視点で把握するように努め、日々の申し送り、カンファレンス等を活用して、その方の全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からの聞き取りや日々の様子、また、家族からの何気ない一言も、大切な意見やモニタリングと捉え、カンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきはケース記録に記載し、内容により、申し送りやカンファレンスを活用している。ケアプランの実施状況をチェックし、スタッフ同士で共有し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様から要望があった際、家族からの協力を得て、電話での関わりを持っていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内祭りや小学校行事への参加の他、月に一度、ボランティアが訪問し、本の読み聞かせを行っている。 また、消防団長のアドバイスを受け、避難訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、ホームの協力医による往診があり、個々の入居者様の報告をして指示を受けている。 また、日頃から小さな事でも相談している。入居者様や家族より他科受診の要望があった際も対応している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診看護師と24時間体制で相談することができており、小さな事でも相談し、早期発見や早期治療に繋げられるようにしている。 また、状況により、主治医と連絡を取り、受診や処置、職員への指示の他、急変時には駆け付けられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族と共に付き添い、それまでの様子を伝えたり、日常生活の留意点等、適切な情報提供している。 また、医師と相談しながら早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及び必要時に、ホームとしてできる事を明確にしながら家族の意向を聞いている。 今年度4月に退院した入居者様、看取りの体制をとり、チームで取り組んだ結果、今現在、入院する前の姿に戻り、元気に暮らしている事例がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員の資格を取得したスタッフにより、内部研修を通して共有し合っている。 町内の消防団の方の協力を得て、最新の技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。 運営推進会議を通して、地域住民から協力が得られるような関係づくりを行っている。 また、食料や飲料水、石油ストーブ等、災害に備えた用意も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様は人生の大先輩であると尊重し、話を傾聴して、自尊心を傷つけない、優しい対応を心がけている。 守秘義務や個人情報の取り扱いについても配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、入居者様の思いや要望を受け止めながら、可能な限り、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者様の体調や気持ちの変化に合わせ、無理に勧めず、その時の思いに配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している入居者様に関しては、自由に着こなしをしていただき、天候や行事等により、アドバイスする事もある。 定期的に美容院を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日三食、スタッフが個々の嗜好の把握に努めており、楽しみながら食事を摂っている。 誕生日には本人の好きな物をメニューに入れて提供している。 片付けは共に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分摂取量をチェックして記載し、把握している。 栄養士の献立作りとなっており、季節の行事食や手作りおやつ等、様々な工夫をして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはできる事は自分で、できない事は介助により支援している。 一人ひとりの状況に応じた支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々のバイタルチェック表に排泄状況を記録し、一人ひとりの排泄のパターンや習慣の把握に努めている。 また、トイレ誘導時は小声で声がけする等、入居者様の自尊心に配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く摂り入れた食事を提供し、健康に配慮している。 排便の回数や状態、量を記録し、スタッフ間で共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	基本的に入浴日を決めているが、本人の心身の状況や要望にできるだけ応じている。 希望があれば毎日入浴できる体制をとっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくり休めるよう、個々の状況に合わせて、日中、活動的に過ごしていただいたり、適度に休める時間を作っている。 また、頻尿により不眠な方には改善できるよう、医師に相談している。 室温等にも配慮し、心地良く眠れる支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の台帳に薬剤情報カードを添付し、いつでも確認できるようにしている。 また、用法や用量が変わった時には確実に申し送りをし、不明な点があれば薬剤師に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの情報や日々の関わりの中で引き出すよう努めている。 ホームでの役割やレクリエーション等を通して、それぞれの思いに寄り添った支援を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話を通して入居者様の行きたい場所等の把握に努めている。 数人でドライブに出かけたり、自宅や買い物等、要望に沿えるよう努めている。 必要に応じて家族の協力も得ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の要望で小額のお金を持っている方もいる。 お金の受け渡しは、一人ひとりの希望や力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があれば、スムーズに対応している。 家族と電話で話をする時は、状況に応じて、スタッフがお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる装飾を行っており、できる範囲で入居者様にも手伝っていただき、スタッフと共に制作した物等を飾っている。 2ユニットが共に違う装飾であるため、入居者様はお互いの装飾も楽しみにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士と過ごしたい時は、ドライブに行ったり、居室に行き来したり、リビングを活用する等、様々な形でコミュニケーションがとられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物品を居室に持ち込んでいただくよう、入居時から家族に働きかけており、自由に使用していただき、家族の写真を飾っている方もいる。 居心地良く過ごしていただけるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力や思いを大切にしながら、見守りや介助を行い、少しでも満足し、安全で自立した生活を送ることができるよう努めている。		